

平成29年度学校自己評価

《評価 A:達成 B:概ね良い C:不十分》

83 豊科高等学校

学校教育方針		中・長期目標			
人間尊重の基盤に立って、学習を深め、心身ともに健全で情操豊かな人間形成を目指す。そのために、本校を取り巻く地域社会の特質と生徒の実態をふまえて、次の項目に重点を置く。 1. 自主性・積極性を育てる。 2. 学力・気力・体力の充実向上をはかる。 3. 連帯感を培い、社会性を養う。		1. 自分自身の意見をはっきり持ち、健全でバランス感覚に優れ、社会を支えられる次のような生徒の育成をはかる。 ① 幅広い基本知識を身に付けた生徒 ② 生徒会活動、部活動、HR活動等に積極的に参加する生徒 ③ 清掃・挨拶がしっかりとできる、礼儀正しく、基本的な生活習慣の身についた生徒 2. 自分自身で進路を開拓し、成就できる次のような生徒の育成をはかる。 ① 資格取得、ボランティアの実習、体験入学、企業体験などに積極的に臨み、進路実現に意欲的な生徒 ② 知的好奇心旺盛で、自らの学力を高めることにより、進路を実現しようとする生徒			
		今年度の重点目標	評価	成果と課題・改善策	
		1. 学習と部活動・生徒会活動の両立を図り、自己の進路実現に向けて努力する生徒を育てる。 2. 基本的な生活習慣が身につく、挨拶や清掃に積極的に取り組める生徒を育てる。 3. いじめや体罰のない安心かつ安全な学校づくりに務める。	B	1. 日常の家庭学習時間はそれぞれの学年の取り組みにもかかわらず、有為な増加はなかった。一方で3年12月特編以降の学習量と頑張りには目を見張る生徒も多く、クラブ・生徒会活動と学習の両立のためには早期の進路目標又は学習目標設定が課題である。 2. 明るい笑顔や気持ちの良い挨拶が本校の変わらぬ美風であるが、挨拶の苦手な生徒や進んで清掃に取り組めない生徒も散見される。教員の方からの声がけ・指導や、生徒の自発的な活動による挨拶や清掃の活性化が望まれる。 3. いじめや体罰については本校は平穩ではあるが、学年・担任団と生徒指導や生徒支援委員会等各方面が連携して、いじめや体罰が「ある」ことを想定して各教職員がアンテナを高くする必要性がさらにある。	
学年	重点項目	No.	評価の観点	評価	成果と課題・改善策
1学年	基本的な生活習慣の確立。	1	1学年指導方針「欠席・遅刻・早退をしない。」の具体化で、やるべきことを確実にやることができてきているか。	A	問題行動なども見られず、基本的な生活習慣が身につけている生徒が多い。遅刻をする生徒もほとんど見られない。
	他を思いやる力の涵養。	2	1学年指導方針「掃除・挨拶をしっかりとしよう。」の具体化で、清掃による他と共有する環境の整備や、挨拶による他への思いやりの気持ちが醸成できたか。	B	掃除をする生徒としない生徒の差が明らかになってしまっている。全員で行うことの意義を徹底させたい。
	学習の基礎の習慣化。	3	1学年指導方針「授業は積極的に受けよう。」の具体化で、予習・復習を含めた学習の取り組みの習慣化ができたか。	B	家庭学習が不足気味と思われる生徒も見られる。引き続き学習習慣の定着を促す指導が必要である。
	自己と他の人権意識の獲得。	4	1学年指導方針「自分を大切にしよう。」の具体化で、自分を大切にするためには、他の人権の保障が必要条件となることを理解できたか。	B	学年内やクラス内にいじめ的な行動は見られないが、友人関係をうまく作れない生徒も見られ、今後の指導が必要となる。
2学年	当たり前のことが、当たり前でできる人材や集団の育成(凡事徹底)お互いに対し、いたわりと思いやりの気持ちを持つ。	5	基本的な生活習慣が身についているか。また、自分の役割や立場を自ら考え、クラスマッチ・豊高祭・合唱コンクールなどの各行事に自主的に積極的に楽しく参加しているか。自己の属する集団の中で、思いやりのある行動ができ、いじめなどがないか。	B	一部、遅刻や、染髪等身だしなみに注意を要する生徒も見受けられるが、多くは基本的な生活習慣が身につけており落ち着いて高校生活を送れている。学校、学年行事などには積極的に参加して楽しんでいる。いじめに関する報告も現段階で来ていない。
	確かな基礎学力の定着および自分に合った進路選択に向けての積極的な意識づけ(多様性の追求)	6	3年生から引き継いだ後のクラブ活動や生徒会活動で、各部署の中心的存在として活躍できているか。	A	選挙等で生徒会役員が決まり、各部活においても、部長、副部長になる者が出てきて、それなりの自覚、責任感を持って生徒会活動や部活動に熱心に取り組む姿勢が顕著になった。
		7	生徒たちが自分の進路を意識する中で、予習、授業、復習の流れを実行し、適切な家庭学習の時間をきちんと確保できているか。	C	進路に関する意識は上向いて来ているが、それに伴う学習習慣は定着までに至っていない者が多いと思われる。引き続き授業やHR集会など様々な機会を通して、学習の必要性をアピールして行かなければならないと思う。
3学年	個々の生徒が3年間取り組んできた諸活動の成果の花が開くための各種指導の充実	8	各種の進路説明会やオープンキャンパス、また研修旅行などを通じて、積極的に自分の進路の方向性を決定することができたか。また、3年次に向けての適切な科目選択ができたか。	B	最終的な決定はまだ先だが、学校内外の指導や調査研究を通して、この1年で進路に関する関心や意識は高まっていると思う。3年次の選択科目はほぼ全員が確定し、進路決定に向けての体制は整って来ている。個々に合った進路決定ができるように指導して行きたい。
		9	安心かつ落ち着いた高校生活が持続できているか。	B	生徒は大きな問題もなく、落ち着いた高校生活を送ることができている。
		10	悔いの残らない高校生活を達成するために、生徒がクラブ活動や生徒会活動および諸行事に精一杯かつ自主的に取り組んでいるか。	A	最上級生として、それにふさわしい成果が各所でみられた。
		11	自己の進路希望の実現に向けて、前向きに学習に取り組んでいるか。また、受験学力を高めるための学習指導ができているか。	B	大学公立化の影響もあり、早い段階でAO入試や指定校推薦入試に流れる生徒も多く、学年全体としての学習に対するモチベーションを保つのが大変であった。個々をみれば、進路実現に向けて真剣に学習に取り組んでいる生徒が多くみられた。

部	重点項目	No.	評価の観点	評価	成果と課題・改善策
教務	学習活動や行事運営の円滑な推進	12	日々の学校運営を円滑に行うことができたか。また突発的な事故・大雪等の緊急時に適切な対応ができたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 各学年とも落ち着いた学校生活が運営できている様子が随所にかがえるが、「概ね良好」という現状の中で新たな課題を洗い出し、全職員共通の意識を持って改善に向けた取り組みをしたい。 緊急放送をできるだけ減らし、生徒が事前の打ち合わせをもとに行動できるよう配慮した。 台風、Jアラート、大糸線の遅れなどの際、それぞれ適切に対応できた。 「安心・安全メール」については、引き続き登録率を高めるよう呼びかけてゆきたい。
		13	学年・部会・委員会等からの様々な要望に迅速に対応すると同時に適切なアドバイスができたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 各部署、各学年と連絡を取り合う機会を増やし、学校全体の流れを意識しながら対応した。 夏休み明けから「校内web」上での伝達を試行している。来年度4月から「校内Web」の利用を本格化し、紙ベースでの伝達を極力減らしてゆきたい。
		14	行事毎にしっかり反省を行い、次年度以降に活かせる方策・対策を検討することができたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 毎年恒例となっている行事についてもその都度アンケートを取り、次年度以降の改善を視野に入れて振り返ることができた。 1学年の「学年行事」、2学年の「研修旅行」は、現在の形で実施して3年が経つので、「行事」の観点を優先させるか、「キャリア教育」の内容を優先させるか、見直しが必要だと考える。
	開かれた学校作りの推進	15	学校HP等で学校情報を効果的に発信できたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 教務室常駐者を1名増員して、迅速な情報収集と発信に努めた。 教務室を移転することで、校内の情報交流も促進された。 来年度以降も現体制で業務してゆきたい。
		16	授業公開・学校説明会を通し、中学生に分かり易い説明を行うと同時に本校の魅力をアピールすることができたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 夏休み中の「学校説明会」は台風の影響で中止せざるを得なかったが、そのほかの機会に来校してくれる中学生などが増えたため、トータルでは去年並みの参加者数となった。 「豊高生と語ろう！」のコーナーを新設したところ、中学生、保護者から好評だった。また、参加した本校生にとってもよい経験の機会となった。 「全国総合文化祭」開催県の影響で、「学校説明会」の夏休み中の実施が難しい。夏休み明けの平日に今年度と同内容で実施予定。 「学校評価に関するアンケート」の実施に先立って、「学校公開週間」を設定したい。
進路指導	生徒による主体的な進路研究と進路実現に向けた計画的な指導と助言	17	学習合宿、ガイダンスなどの企画運営や進路に関する情報の収集と伝達が効果的に行えたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路別ガイダンスやセンター試験ガイダンス、就職ガイダンスなど計画通りに実施できた。 学習合宿について、予定していた宿泊所が利用停止になってしまい代替りの場所が確保できなかった。 進路情報については新たに掲示板を作ってもらい、有効利用できた。 大学ごとの教員向け説明会には2、3年担任を中心に積極的に参加できるとよい。
		18	家庭学習の習慣を定着させるための方策を各学年で工夫し指導できたか。	C	学年の係、担任を中心に努力した。しかしなかなか生徒には実感として伝わらなかった感がある。自発的な学習ができるようになるために、まずは予習復習を中心に継続的な指導携が必要である。
		19	進路指導部内の仕事内容を見直し、効率化が図れたか。	B	係の仕事はスムーズにできた。が、まだまだ改善点はあるので来年度に引き継ぎたい。
生活指導	安心できる学校生活の構築 (問題行動・交通事故等の未然防止)	20	校舎内や学校周辺の巡視が計画的に行えたか。	B	巡視を計画的に行った。行事等にあわせて、係で数回校内を巡視した。空き教室の各自の持ち物の整理、管理等をもう少し指導していくとともに、定期的に置きっぱなしの私物については回収の必要がある。校外巡視は、必要に応じて文化祭後などに3学年・生活指導部、PTAで協力して行った。
		21	いじめの未然防止に関して、その対応や対策がきちんとなされたか。	B	生徒同士で誤解を生じてしまうようなケースが増えているので、面接など丁寧な指導した。授業評価や学校評価のアンケートの中で、いじめに関する情報を年2回収集した。心配のある生徒に関する情報を担任やクラブ顧問と共有できたが、個人情報管理に関しては細心の注意が必要である。
		22	交通安全指導が的確に行えたか。	B	警察と連携して交差点での交通指導を年数回行った。集会での話や啓発文の配布などして交通安全の意識を高めるよう心がけた。大きな事故は昨年に比べ少なかったが、引き続き今後も根気強く日常の交通安全に関する指導や情報提供を続けることが重要である。
	23	学習環境を充実させるための支援が十分できたか。	B	学年合同LHR等を利用して、携帯電話の使用方法について指導し、徹底していく。まだまだ規範意識が低い生徒がおり、携帯電話の使用については注意喚起が必要である。	
	地域・家庭との連携	24	地域・他校・警察と連携がとれたか。	A	生活指導委員会安曇支会や学警連絡協議会を通じて、生活指導に関する情報交換をスムーズに行うことができた。他校が関係する事案についても、他校とこまめに連絡をとりながら対処することができた。
25		PTAと連携し市内巡視ができたか。	B	夏休み初旬と2学期期末考査前の2回、PTA生活委員会で校外巡視を行った。本校生徒は特に指導場面には見当たらなかった。時期や回数などの意見を吸い上げ、効果的な市内巡視ができるとよい。	

部	重点項目	No.	評価の観点	評価	成果と課題・改善策
生徒会指導	生徒主体の行事の運営 生徒会目標「全進」を踏まえた団結力のある生徒会作り 活発な運動部・文化部の活動運営のための援助	26	各種行事の企画・運営に生徒を主体的に関わらせ、計画的に運営するように指導できたか。特に、第70回豊高祭について指導できたか。	A	第70回豊高祭や合唱コンクール、クラスマッチ等で生徒の主体的な取り組みができた。特に豊高祭では生徒会役員ばかりではなく3年生全体が一丸となって、各種企画の準備に率先して取り組んだ。
		27	クラブ活動の支援ができたか。	B	各クラブの顧問のご尽力のおかげで、支援することができた。
保健・清整	生徒の健康状態の的確な把握と安心安全な学校作り	28	生徒の健康状態について職員の共通理解、連携が図れたか。学年等との会議を適宜実施し、連絡を密にすることができたか	B	学年会、職員会議をととして、生徒の状況について、理解が深められて、良かった。様々な健康問題を抱えている生徒が、増えてきているので、必要な対応について、職員が連携しながら、有効に取り組みことができるかが、課題である。
		29	生徒の委員会活動による健康教育、教室の環境を整えること等を適切に実施することができたか	A	保健日より、用具庫当番、衛生用品の補充、健診の補助など、委員が率先して行動できた。今後、冬季の教室の換気に、心掛け、感染症の蔓延を防止したい。
	校内の環境美化	30	生徒が毎日の清掃活動に精力的に取り組めたか。また、適切な指導ができたか。	B	全職員で毎日の清掃活動を指導したが、それぞれの分担箇所が多く指導が行き届かない場所もあった。来年度も引き続き清整委員会が中心になって校内美化に向けて活動したい。
		31	ワックスがけ等、校内の環境美化活動を計画的に進めることができたか。	A	計画通り年2回のモップ交換、10月にワックスがけを実施することができた。また、ゴミ集積所での日々の当番活動も含めて清整委員は率先して活動することができた。
図書・視聴覚	資料収集と提供	32	蔵書構成や利用をふまえた選書ができたか。	A	生徒、職員の要望に応えつつ、バランスよく、選書することが出来た。
		33	リクエストや予約の制度が利用できたか。	A	十分に利用することが出来た。
		34	公共図書館や他校との相互貸借ができたか。	A	公共図書館や他校とも積極的に連携することが出来た。
	教科との連携	35	授業やHR、文化祭などで図書館の利用が活発になされたか。	B	ある程度、活発に利用された。ただ、特定の授業に偏りがちであった。
	読書推進活動	36	図書館講座や読書週間・朝読書などの行事が予定どおりできたか。	A	春の読書週間では講師に3人の教育実習生をお願いし講話をしてもらい、好評であった。又、秋の読書週間に伴い実施した朝読書は、落ち着いた雰囲気、本に親しむ様子が随所で見られた。
		37	資料の紹介・図書の推薦が行われたか。	A	今年も、全職員協力のもと、「先生たちのお薦め本」を発行し、図書の推薦を行った。又「図書館便り」や図書委員会報」などを通じ、積極的に新刊本や資料の紹介を行った。
	利用しやすい放送室の整備	38	放送卓のマニュアルの周知、放送委員の利用法の熟知により、多くの職員や放送委員がより使いやすくなったか。	A	放送室の整備は一段落し、今年度はより高度な音響照明を要求される文化祭開祭式の音響照明システムの構築に着手し、ほぼ完了した。来年度は新顧問の下、生徒会顧問・業者の支援でリーズナブルな価格で高度な音響照明が可能となった。
利用しやすい視聴覚室の整備	39	遮光装置の更新でより使いやすくなったか。	B	保健体育・歴史研究等では定期的に利用していただけた。また、DVD利用が必要な時に社会科、各学年LHR・総合学習等で利用していただいた。暗幕効果については十分であり、視聴覚教室として機能できた。	
防災	生命を守る危機管理体制の整備	40	平成29年度防災計画の作成・確認はできたか。	B	防災計画を作成し、防災体制の係分担を確認し、職員に徹底した。避難訓練に先立ちSHRを利用し避難経路図の確認ができた。
	職員の防災意識の向上	41	危急時に備えた職員の意識を高めることができたか。	B	臨場感を増すために抜き打ちで発煙筒をたき、防火扉を閉鎖しての避難訓練を実施した。緊張感が生まれた一方で、煙にむせる生徒がいた。事前に発煙筒を焚くことについて周知しておく必要があった。また、防火扉前の荷物の片付けも周知しておく必要があった。
	火災・地震などに対する緊急体制の整備	42	緊急時における職員の初動体制を確認ができたか。	A	避難訓練時に担当の係ごとに集まって配置や業務内容を確認できた。
43		防災訓練を実施することにより緊急体制の確認ができたか。	B	緊急体制の確認は机上ではできたが、訓練では不十分だった。初期消火などの実際の場面に沿って訓練を行う必要と職員間の連絡体制を整備し実際に試す必要がある。訓練内容も3年間のローテーションで実施できるよう計画性が必要。	
渉外	PTA・同窓会活動の活性化	44	PTA活動に対する保護者の理解と関心を高め、諸行事への参加率を向上させることができたか。	B	・理事会との同日開催でPTA総会への参加率が向上した。 ・地区PTA等が出た意見要望等の検討を理事会で行い、回答をPTA通信などでお知らせする。
入学者選抜	確実・効率的な選抜業務の遂行	45	昨年の反省を活かした準備と確実な選抜業務が遂行できたか。		今後の遂行にご協力をお願いします。
将来構想・学習検討	本校の将来像を考えるための基礎構築	46	本校の現状に関する多様な考えを交換することで、生徒急減期に備えての方向性を論議する基盤ができたか。	C	将来像を探るために昨年抽出されたキーワードを資料にしつつ、KJ法も取り入れた職員研修会を行った。様々な意見の存在が共有されたが意見交換が十分でなく、急減期対策の具体案作成には至らなかった。
	本校の教育活動が生徒をよりよく伸ばすための一助となる資料の提示	47	本校の現状を理解するために教職員・保護者・生徒に対してアンケートを実施し分析できたか。	B	生徒支援委員会と重複するアンケートの削減をした。授業評価では、高評価の授業例などを紹介し、見やすい板書・聴き取りやすい発声・良いところをほめる指導などに留意してもらうよう呼びかけた。

部	重点項目	No.	評価の観点	評価	成果と課題・改善策
「総合」運営	進路に関する積極的な意識づけと自己の目標の設定	48	「総合的な学習の時間」のなかで、高校卒業後の自己の進路実現に向けて、各学年の設定した学習目標が達成できたかどうか。	A	キャリア学習をはじめ、各学年の計画に基づいてしっかりと「総合的な学習の時間」を進めることができた。来年度の1年生から、探究活動をどのように「総合的な学習の時間」で実施していくかが課題である。
人権教育	人権意識の向上	49	人間尊重の意義、及び様々な人権問題についての正しい理解と知識を深める学習ができたか。	A	全校での人権学習、職員での人権研修、また今年度は義務校と交えて研究授業を通じての連絡協議会と、それぞれテーマやこれからも考えていかなければならない問題等の提起・意見交換ができた。
		50	互いの個を認め合い、友情を育む学習が行えたか。	B	上述のほか、学年や教科の中でも意識の向上を目的に行えたことがあった。欲を言えば、HRの中で何かテーマを持った話し合い等の時間が持てれば、とも思った。
教育課程	生徒の多様な進路希望に対応できるように、教育課程のさらなる改善および講座編成等の検討	51	新課程実施において起こりうる様々な問題点・見落とし等を早期に発見し対応策を講じることが出来たか。	B	教育課程の編成については、多岐にわたる進路希望を持った豊科高校生に概ねマッチしている。今後も学年、生徒、進路係等と連携し協力していくことが必要。
	「30年度入学生用の教育課程」の検討	52	教育課程の編成が適当であったかしっかりと検証し、30年度入学生用の教育課程の骨格を作れたか。	B	生徒の現状に合った教育課程であるので、運用面(講座編成、授業内容等)で工夫しながら、さらに、改善点を模索しながら今後も検討を続ける。
	次期学習指導要領における新教育課程の検討	53	新教育課程について本校の特性や実態に合わせた課程の検討ができたか。	B	総合的な学習の時間の内容等、充実をはかるために検討した。現在、検討継続中。
学校衛生	安全で働きやすい職場環境の整備	54	職員の健康診断を全員実施が達成できたか。	B	定期健康診断の該当者は、全員受診できた。ドック対象の方が、年度末までに、受診できるよう、更に働きかけていきたい
		55	衛生委員会を定期的に開催できたか	A	定期的に開催し、勤務時間等について、検討を重ねた。
合宿所運営	・移転・新築に向けた使用規定の検討	56	使用規定・手続きの見直し・検討が図られたか	B	30年5月の新合宿所使用開始に向けた合宿所使用規定の見直し原案の策定が終了し、現在内規改訂の手続きの作業過程である。
生徒支援	早期発見・早期支援	57	相談室の活用方法と常駐体制の検討	C	相談室が新設され、本校なりの活用の状況がみえてきた今年度であった。来年度は常駐も含め、より積極的な活用を検討していく。
		58	(1年生実施)アセス分析、ケース会議ができたか	B	今年度初めてアセスを実施。気をつけて見た方がよい生徒もピックアップされた。要支援までいかなかったため、ケース会議までは至らなかった。来年度実施するか否かは、来年度また検討。
		59	職員の知識の引き出しを増やせたか(研修、お便りなど)	B	お便りを数号発行できた。職員研修が計画できなかったため、来年度実施できるよう、今の段階から計画をしたい。
		60	委員-担任-保護者-生徒 お互いに声かけができたか	C	状況によって、保護者・生徒と直接連携をとり支援できたケースもあったのでよかった。しかし、支援が必要なすべての生徒に対して行えたかという点では、来年改善の余地がある。
セクハラ対策	被害者・加害者にならないためのセクシャルハラスメントの正しい理解推進	61	研修会等、様々な機会をとらえて意識の向上が図られたか。	A	問題事例なし。非違行為防止研修の中でも意識を高めることができた。
学校評議員校内運営	学校運営に生きる情報連携・行動連携	62	学校評議員からの意見や提言を学校運営に活かせる方向で検討することができたか。	B	本校の良さを生かし、地域の期待に応える学校運営の推進を後押ししていただく機会として有意義な学校評議員会を予定通り開催できた。開かれた学校づくりに向け、一層の活性化を推進したい。
しなの木セミナー運営	進路実現および学力向上のための支援	63	進路実現と学力向上のために有効な講座設定や円滑な運営ができたか。	B	全学年で滞りなく運営できた。生徒のニーズに応え、学習意欲や学力向上につながる多様な学びの場を提供できるよう、運営の努力をしていく。
いじめ対策	いじめの未然防止・早期発見に向けた生徒指導の取り組みについての研究と実践	64	「学校いじめ防止等のための基本的な方針」に基づき、未然防止・早期発見のための職員間の連携が機能したか。	B	「学校いじめ防止対策推進法」を受け、「学校いじめ防止等のための基本的な方針」に加筆することができた。全職員の周知徹底を図る。
		65	問題対応とその指導が適切になされたか。	A	アンケートや相談、声かけを生かし、職員間の行動連携のもと、的確な対応ができた。
コンプライアンス	公務員としてのコンプライアンス意識の向上	66	個人研修や職場集団としての研修が、非違行為防止のための取り組みとして効果的に成されたか。	B	チェックシートの実施、個人・教科による自連研修、自己分析支援チェックシートを通して、コンプライアンスの意識向上を企画したが、情報管理においては不十分な現状であった。今後も継続的に意識向上に向け取り組んでいく。
図書選定	資料収集と提供	67	蔵書構成や利用をふまえた選書ができたか。	A	生徒や職員の要望には可能な限り応えつつ、バランスよく、選書することが出来た。